

令和5年度 朝来市立（糸井小）学校 学校評価

年度末はこの様式にて提出してください。

学校教育目標

ふるさとに誇りを持ち
こころ豊かで自立する 糸井っ子の育成
「未来への道を切り拓く力」を
育む教育の推進

総合的な学校関係者評価

・達成状況は概ね妥当であるが、一部厳しい自己評価の項目があるため正を勧告した。
・児童数が減少する中で、教職員数も減少してきた。今まで行ってきた教育活動も厳しい条件の中で実践している。また、教職員の減少は児童一人一人に目を向けることも困難になる。教職員定数以外に市負担教職員等により解決することが必要である。
・今後は学校運営協議会のふるさと学習部と学校の連携を密にし、体験学習を中心とした取り組みをさらに充実させていくことが求められる。

※文書表現で記入してください。

自己評価 達成状況 (A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない)

評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 (評価項目ごとの学校関係者評価・意見等)	
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	B	・学校だよりの定期的な配付により学校の様子や行事予定を伝えている。 ・全学級で学級通信を発行し、学級や児童の様子を伝えたり、週末を掲載したりしている。 ・年間予定の主な学校行事(授業参観・運動会・マラソン大会等)を実施することができた。	・PTA教育講演会は、高学年だけでなく、中、低学年でも聞いておくべき内容だったと思った。保護者の方の出席率が低かったのは残念でならない。強制してはいけないかもしれないが、それくらい聞いて貰いたい内容だった。 ・子どもの様子を見ることができている機会が増えありがたい。 ・授業参観など平日に催される学校行事は、学校での子供の姿を見ることができ貴重な時間だが、割と頻度が多いように感じられ、仕事の休みを調整するのが少し大変な時がある。 ・OPSSについて学校とPTAが調整し、土曜日開催を検討してはどうか。また、地域の参加も推進する必要がある。 ・糸井チャレンジと学校連携の連携をさらに推進していきたい。
		学校運営協議会活動の充実	B	・参観日を含め児童の様子を参観していただき、意見交流を行うことができた。 ・糸井地域の方を講師に招いた体験学習や学校行事等の充実に向け、協議することができた。 ・広く地域に関くオープンスクールの開催に向け取り組みたい。	
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	B	・委員会活動や学級活動を中心に、集団生活の役割を自覚させながら取り組むことができた。 ・縦割り掃除は高学年を中心に丁寧に取り組むことができていた。ただ、来年度に向け掃除場所のローテーションやそうじ集会等の持ち方など、より工夫して計画していく必要がある。	・休み時間なのに先生の都合で休み時間が無くなる事が多いと子どもから聞いており、楽しみが奪われ、学校が楽しくないと思う機会が増えてきたように思う。オン、オフの区別をきちんとつけ、メリハリのある生活を送れるようにしてほしい。
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	B	・児童が多様化しており、毎月実施の生活アンケートを含め、児童の状況を多面的・継続的に理解を進めていく必要がある。 ・児童が安心できる学校・学級作りを第一に据え、教職員一丸となって取り組んでいきたい。	・学校と家庭での連携が取れていない。もっと子供の話、意見を聞いてあげてほしい。我慢させるだけで解決策を考えようとしてくれない。時代の流れなのか、最近は親身になってくれる先生が少なく冷たい先生が多いと感じる。 ・授業中にふざけていたりする子供達に注意をすることで、授業の大半の時間を使い勉強が進まない子供が言っていた。数回であれば仕方がないが、多々あるようですので補助の先生に入っていたりなど、検討をしていただきたい。
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	B	・定期的に会議を持ち、保護者やSCとの連携を行い、学校全体で情報共有しながら取り組むことができた。 ・今後も、初期対応時などは臨機応変に会議を設定し、迅速な「報告・連絡・相談」を継続する。	・担任・児童・保護者の良好な関係づくりに取り組むことを再確認して学校全体で進めてほしい。 ・先生は一生懸命取り組んでいるという保護者も多い。そういった先生方の姿勢も加味した前向きな評価にすることも大切である。
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	B	・毎月の安全点検後に、校内で迅速に対応できた。	
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	A	・研修で学んだことを教職員で共有し、学級や学校の中で役立てていきたい。 ・今年度は、震災・学校支援チーム(EARTH)員招聘による1.17集会を開催でき、児童にとっても充実した内容となった。	・体育館が改修され、校舎内も明るく、児童は非常に良い施設環境で学習活動を送ることができている。
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	B	・個別の指導計画や個別の支援計画の作成に取り組み、特別支援学級児童も含め支援を要する全児童への実態把握に努めている。一方で、支援を要する児童の増加や多様化への対応、合理的配慮についてなど課題も多く教職員で研修を深めていく必要がある。	
	安全安心に過ごすことができる学校づくり	新型コロナウイルス感染症対策	A	・5類移行にともない、業務改善の視点も取り入れながらアフターコロナにおける学校行事等を計画・実施することができた。	・各学級を参観し、落ち着いた様子で学習に取り組んでいる様子が見られた。ただ、姿勢が崩れやすい児童も見られるので、意識して声かけをする必要があるかもしれない。
	あさごドリームアップ事業	特色ある学校づくり	A	・朝来市独自の取組であり、ふるさと学習や児童のふるさと意識への高揚に大いに寄与しており、今年度は3～6年生において地域から講師を招き年間計画通り実施することができた。	・米作りなどの農業体験などがあり、自然いっぱい糸井らしさが体験できることがよい。 ・今年度は4年生の学P行事で糸井チャレンジに参加した。ふるさと教育の点から他の学年へ広げたい。 ・掃除ボランティアなど、地域が参画して児童に指導することも、業務改善にもなり効果的であると思う。
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりのUD化推進	B	・研修テーマを『いきいきと主体的に表現する児童の育成～共に学ぶ「わかる」「楽しい」授業づくり～』と設定し、全学級研究授業実施、ICT活用研修など各教員の力量向上に努めた。 ・UD化に加え、全児童に分かる授業展開の工夫や指導方法の研修が必要である。	・この2年ほどで学校の授業が大きく変わったように思う。工夫された授のなかで子どもたちが生き生きとして学習している。研修などで取り組んだ成果が出るには数年かかるので、今後も継続して取り組んでほしい。
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	B	・朝学習でタブレット活用や視写プリント全校実施を行い、学習習慣及び基礎学力の定着を図った。 ・支援を要する児童や定着の難しい児童に、より効果的な対応を検討する必要がある。	・親の世代とは大きく異なるストレスの多い教育現場で、校長先生を始めとする先生方には、日々ベストを尽くして取り組んでくださっていること心から感謝している。そのお陰で、我が子がいつも元気に登下校できている。家庭で取り組めることにベストを尽くしたいと思っている。
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	B	・低学年を中心に思考の流れが分かる板書を意識し、授業改善を行った。 ・伝達研修も参考にしながら、教職員が道徳授業を見合い道徳の目的をふまえた授業展開を研修する必要がある。	・学校からノーマディアの日を作るようにと、生活点検表に書く項目も作っていただいているのですが、他にもノーマディアをしていない子がたくさんいると言ってしまう。なぜノーマディアの日が必要なのか家庭でももう少し話し合いをしたほうがいいかなと思っている。
	情報教育	情報活用能力の育成に向けた指導改善	B	・ICTを活用したレポート作成や都道府県学習等に取り組む、児童の意欲付けにもなっている。 ・タブレットの取り扱いを再度児童と確認し、子どもと一緒にルール作りを行った。今後もICTの教育的価値により触れることができる活動を設定する必要がある。	
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	B	・仲間づくりを基盤とした人権教育を推進した。 ・LGBTQ等の今日的な人権課題における正しい認識を身に付けるために教職員自身も継続して人権教育研修が必要である。	
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A	・環境教育体験活動は、計画通り実施することができ、次年度も活動が継続できるとよい。 ・コロナあけの泊を伴う自然学校となったが、5年生全員が4泊5日体験できたことは児童の大きな自信となっている。学校として細かい支援体制を組んだ成果であると感じている。	・人を虐める言葉は使わない、自分が受けて厭な言葉は使わない。みんなそれぞれ楽しい生活が送れるような心の優しい子供達が育てられる事を祈る毎日です。
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	B	・食育担当や担任を中心に様々な機会をもらえて食育指導をしている。朝来市学校栄養教諭を招聘し、全学年で食育指導を行うことができた。	・ふるさとを知る活動が地域食料、地域の食文化の理解につながっている。今後も体験活動を通して充実させたい。 ・こども園との連携はとても良い。運動会や糸井フェスティバルに参加した経験が新1年生の生活につながっている。
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B	・キャリア教育年間指導計画をもとに、キャリア教育で育てたい基礎的・汎用的能力(人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力)の育成に取り組むことができた。	
その他	国際理解教育 図書館教育	A	・ALTの指導力と人柄が授業を活性化し、本校の外国語指導に大きく寄与している。 ・図書ボランティアの活動により、児童の読書への興味が高まり、豊かな心が育まれている。 ・今後より一層本を借りる児童を増やすために、図書室指導の工夫が必要である。	・今後もお話をたから箱の活動を継続し、子どもたちに豊かな心を育てていきたい。	